和訓栞

久之部

837
34
48

国立国会図書館　タイトル『和訓栞』 請求記号 837-48

ガラス使用

837-48

根岸信輔氏寄贈

昭和八・十・廿三

白山文庫

久の部

洞津　谷川士清　纂

くゝ　茶をとゝむいくたびも通ゝ○國をとゝむいくたびの略ゝ○こん反くゝれ
古今集詞書かゝ今まうでこんとゝいふ○地名ゝ
人くゝしてなゝいふ供字也

△くあ

△くい　悔也日本紀万葉集よんゆやいゆゝをゝてをゝつけり又く
いれ八千度をとゝりくいる兄時いるる反ゆゝ祝詞ゝ悔びゝもゝんゆゝる
とゝ云へかゝゝ○えゝゝぬゝゝとゝゝある八海悔ゝゝりゝゝゝゝゝゝゝゝ
後悔ゝ字待ゝ召南よんゆ

△くう

△くえゝ　潰ゝゝあり又ゝゝゝ反ゆゝゝて万葉集よくゆゝゝあり

△くゝ　馬楽よんゆ梁塵抄よんゆ彼窪谷窪ゝゝゝゝゝゝゝ

△くゞ　陰とゝの日本紀よくゝぶゝともあり地形をくゞまるゝ義をみべし
くがべ　古事記に玖詞瓮と見て日本紀に探湯瓮とゝかゝり
くゞだち　日本紀に探湯まゝ盟神探湯とゝあり或湿納金煮沸
攘手探湯湿或焼斧火色置于掌とゝかゝ今は沸湯也は言本なる
色〻真臘風土記に以鍋煎油待沸探之とゝいふよをみし
△くゝき　日本紀に洞字岫字をゝみ彩擬字境に嶂巒をもゝあり洞は
岩穴なりて穴を通るをいひ岫は岩穴なりて袖に似るをいゝし又漏を
ゝあり古事紀に自我手俣久岐斯子也とゝかゝ俣をふゝ俣へしゝぐり
ち俣くゝを反ゝし長洲の東紀行に くゝがゝなる荒波ちをゝ俣を
ゆとゝかゝり○莖をゝあるはくゝみの義くゝみ枝葉を含めるをゝ
○倭名鈔に豉をゝあり彩擬字境に醤油〻或説に今は将醤油をいるをは
古へはゝ豉汁は味噌汁字集にふもはをすくゝは漏は義た
まりとゝいふごゝく今は醤油をゝ〻しゝとゝり○くゝきづけは薤也莖漬の
義なるへしすいぐゝは京外は賀茂ゝり出る酸味を賞す○久岐ゝ

崎は強河に入りをゝ清ゝ清ゝとゝいふ所をゝ也ゝり洞海は長門に入り
△くゝ　日本紀倭名抄に菊をゝあり音は鞠ゝ○義は集に登姚久ゝ
鶯をゝ鳴るも義ゝ鳴ゝ義は集ゝ
くゞ俣　日本紀に泳字萬葉集に潛字をゝありゝ水ゝ也をなを論
をゝ俣頃をゝ俣をゝいふも漏をゝくゝをゝ也ゝり○潛潜は
伊勢二見郷に入り
くゝむ　日本紀に銜をゝあり含むに同〻○馬銜を俗にくゝみをいふ
う倭名抄に見をゝり○繩をゝくゝむは帖也をいゝり
くゞり　神代抄に裏字をゝあり菝草を編て袋にもゝるをいふ
万葉集抄に細き縄を指地入る地ゝ田舎は者の指をゝいゝり○
倭名抄に傀儡子をゝあり今音をゝ又てゝつゝもゝゞつは
ゝもいゝり俗にでゝるゝがまゝゝといふをゝ裏を負ゝりをゝて戯曲をする
をゝ也ゝ古へ事記紀に漢高平城に圍陳平の計に紀をゝ
ゝり○欽の集に遊女は舞妓は傀儡をゝ也ゝ舞妓は朝野

群載ニ俑偶子記ニ云ク男則皆使ニ弓馬ニ以ニ狩獵ニ為ニ事ニ或跡双剱
弄ニ七丸ニ或舞ニ木人ニ闘挑云々変ニ砂石ニ為ニ金銭ニ化ニ草木ニ為ニ鳥獣ニ女則
為ニ愁眉啼粧折腰歩顰歯咲施朱傅粉倡歌淫樂云々
そて奇ニ小倉山ニ云ク此里大井川ニ流レ此ニ小野ニ落ル苔衣ニ
なとゝみなるふせり人形をつくれとをかたとゝ
男を殺せと業とす女を偏ニ女ニ
足柄竹下催馬樂里鳥子歌袖掉歌辻歌等ハ當時ハ
くゝ所　神代紀ニ涙洟ヲ
変ニ化ス茅ニ
くめる　幼少ナル児ニ食ヲ
本紀ニ過飯ヲ
り閑白殿ニ
ともこゝ
くゝ
くゝ

ニ云ク哺字ヲ含メルヲ
〇日
ニ涙洟ヲ
ヲ
ヲ

野神社より説文に苔草也とあゆ弘安中蒙古賊を祈りし草野七郎より○草は青きをもいなる詩詞に白草と云ふ胡地草こを白しと云ふ○種といふも苗より出でたるなるべし

こち種わらひ種なるこの色と金漸兵制に載る所なり

今歌所にあり雲形と同じかるべしとおもはれたる汎氏にあり

○たき物なり麝香といふも種なるへし源氏にあゆ○胎毒をくだくいふも臭き義なるへし

くさう　古事記に日下をもみ序に断に日本紀に草香と云へり

あり日下をもむかし海を渡るみや後名抄に名に日下をくさうべ日記にくさべとあり古今に日記に略せり

くさう　臭をもあり腐より出る汎なるべし

くさぶ　腐をもあり朽出れ義なるへし○鎖をもくさぶと云ふ堀河百首に祈出れ罪あひをくさぶ作くさあり色なり鬘にかくるなり

いとつもくさりて見るなり

くさび　楔をもあり職人所合にも見えたり車にあり輻なり和名抄にみゆ

○草火をもくさ川に草火あり川辺にも草火の草火の崩出る氣煙を

くさぐき　日本紀に品字雜字又稚くさぐきとあり稚枝を云なり増韻に稚物なり猶物なりとあゆ又八色をやくさぐきとあり人をくさぐきとも

くさたち　源氏に見えたり日本紀に稚雑物をくさたちあり

くさばら　神代紀に東草をもあり延喜式にいづくと見えたり青草

くさぶち　草鹿に義草に席に象るなり名なり初めひ物をする

くさぶち　結古なるべし人をもくさぶちと席を造り或は紙脱なり

すくもとかなるべし建久三年に初めて東鑑にあゆ杜氏通典に馬射に式をいひしるも綴皮為両鹿馳馬射とあり又盛

衰記に市の事に五六歳に成て行に小にあり

さくさもぐれた矢的を草鹿とゐて立ちを以て祭り給ふ北咲神
社夏六月十五日之祭を草鹿之拙庶民之中長弓馬者自國守命之
令行此禮曰草印地とゐてさくり

こさどり　腰甲といふ日本紀に押をうつくしくひとつあり其菓物と
寄り馬よ草脇と出るゐてさくさくさくさくや甲の袖くさすくといへハ商の方也
草摺とハいふる也　源氏を制もかりて或ハ下ハ敷ともいふり芝摺ハ草摺なよ
ゐる源氏名ゐるへ〳〵書費誓よ善戯乃甲冑とゐて源よ戯ハ縫完也
とゐり前漢書よ衣三屬之甲源よ屬ハ甲札之数とゐてさくり史正義ハ
首身裳とゐゆ

こさあさも　倭名抄に厨草とゐてあるり瓦草を闘しめて戯と
すれ今廣菊りゐてさくり

こさはいと　草はゐるり草はれたやうなるといふ白樂天の詩に草縷茸り

茸雨剪齊とゐゆ

こさむさび　治り草創はさくりいてりて婚姻はなるはしてゐるも

いふ結納はさくり是を左傳は魏顆ゐ父は妾を嫁せ〳〵事よ老人結
草とゐ〳〵ゐとすハ牽強なるへし草は唐高僧傳
に頭陀為業結草為菴とゐてさくり○喜撰なるは草はちはげを引り
草を結んてゐは織とゐてさくも奇りゐり○伊勢物語よゐり草を
人はひとそん新千載集に相知りてけり女は家乃業をゐるかとて
草をむすびていを結ゐてゐる

いとゐ門引をゐて草むすぶ風吹とゐるなん日まそり

こさはかさて　拾遺集に草はかきもこそやはてきけるゐり中に
稀は紙よゐり草或ハかゐとゐり神代紀よハ草葉をゐみ延喜式に
も草乃片葉又垣葉とゐて朝野群載よハ破葉とも寄り麓ゐる葉と

こさひとがた　日本紀よ蒭靈をゐり草人形とて今の藁人形なり
鉄人形金人形等と式よゐてさくり土偶人木偶人ハ史記よゐてさくり

こさいみ　万葉集に皆家を〳〵ゐるとゐり集ハ皆なるゐは紙よ
やゐたり〳〵ゐるといへ家ハ紙ゐるゐて家乃もゐかゐ廃む義也

この草のことなり儀式帳に悉皆の三字古点をつけたり

らさなぎ　神代紀に草薙劍とあるこれ名義は景行紀によれり○草薙は祠は駿府にあるを示す草薙村草薙川もかりそめ○伊勢外宮は拾社に草名伎社にあり蓋仁王経に字紙を用ひ朝敵阿彦追討に大若子命よりし湯はらし標劍仗を奉るといへり

△くし　奇字をもあり霊を因し○髮又首をもむを奇は異なり細なりみくしとひくしけずるなりといふ是し○櫛は髮を因りて名とす奇よりあるは栉柘は小栉筑紫栉剌栉あるとあるなり栉は紀栉かり栉をもくしとよめり類聚雜要に解櫛延喜式に梳櫛あり○新撰字鏡に鈿をもあるも櫛と因るなるへし梳を

かくし　歯篦は歯篦なりとも歯は稀に因りて櫛は櫛に因りて

くし○くしは歯をひくといふ蟹は櫛比なるいふ如しくしくしの○籤は櫛なりせる名なへし倭名抄に籤は竹ひごとあり○神代紀に櫛を櫛とあるは集韻に櫛俗省作栉とあるを串と因く用

ることし又日向に韓櫛生村あり俗栗を潤て區児とし韓栗林は栗なるこれ風土記にあるなり○萬葉集に屎遠くまれ櫛造る刀自とあるは籤は彫なるこれ今も岐岨は山中に用ひかやは屋にしとあり輟耕録に今寺観削木為籌置溷圊中名曰厠籌とあり齊文帝如厠令楊愔執厠籌とあり魏胡大后常為僧造厠籌必自試諸頰といふ如き天子國母のことなるとあるかくは如し甲乙剩云は安平俗厠男女用瓦礫代紙殊為嘔噦とあるは甲乙○孔子を古へくしとあるは反くし孔雀はくみも因し續日本紀に称泄は勅号文宣王とあり弘仁格に應改孔宣父為文宣王とあるは西土は謚号を以方とも用ぬ也

ら野は釋奠は稀なるべし釋奠をくし祭といふ○孔子は名は丘

もとあるは背は山人といふ事磐余大原紀行にくしは背の山人は惺窩先生とあり○源氏に驛は長くしとあるは菅公の協事也河海に驛長莫驚時変改一栄一落是春秋とあるは菅家文草に此詩在或僧侶書中不知真偽とあり大抵はくし須磨は記

みも清らかにつゝしてあるべきなり口詩と書りは号は義
なり一説に句詩也全篇なるべきをいふとも○源氏物語に屈
事ともいふ○串崎は長門也義経は平氏を檀浦に破られ舟を屈り
くしひ　神代紀に霊とあり奇日は奇霊日まさに
霊邦に日をあやしくなるとかきたるかうかひるをり
くしろ　倭名抄農耕具に鉏とあり字書に折木為器又裂也
とあるとあるとさくくしろともあるとあり指代記なるくしろとあり
図書に名は釧代をも釧せり方言第に釧をくしろとあり玉釧とい
へるは手玉拆釧といふは詮なるべし倭名抄にひぢまき紀に訓し
くしろ方言第に釧著手節乃崎とつくしろあるも臂環也とあるべし
印本に釧を釵とかくは誤也とあり正韻に串音釧物相貫也とあり
くしは臂環也とあるかよりて串と同しく訓するべしくしろは脇環
方言第五

くしろもこれくしろまきもまた吾輿也とあり紀にくしろとあり

神風抄に伊賀伊賀郡喰代作厨是ゆくしろとあり
くしど　中臣祓に屎戸と書りくそとあり紀に放矢とも
送糞とも是くそ古語拾遺には以屎塗戸とも出り古事記に於
聞看大嘗殿屎麻理散とあり○釋日本紀に凡欲詛人之時必有送
糞其坐若深其糞者必有憂病是古之遺也今代人之欲詛人者
亦有放矢者倣此耳とあり源氏抄に村上帝の時宣耀殿の女御
と藤壺の中宮とのゆかりみたりしに方々の人々かくれ
まゐらせしとあり埃嚢抄に軽罪は屎を遍身に塗て祓
り放つの律にあるとあり其糞穢は洗浄めて祓をたくくるる
法也人の近つくあため也とあり○竺土の法にくしど
抄　扶字にあり日本紀に屎とあり串とあり須賀へし新撰
字鏡に剜とあり○倭語抄乃ちくどりといふも為扶
乃ちくどりなり
くどり　倭名抄に鷄とあり鶏を体りいふなり新撰字鏡に

釧をうめり

らしぎ　神代紀に挿籤をうみ延喜式に串刺と書り人は田を奪ひ己が田れを立て相争をいふなり是古語拾遺に竊往其田刺串相争とかきたるを神代紀に秘則と書せり○皇代紀に梟をよめり梟首をいふと説文に夏至捕梟磔之以頭挂木上今謂挂首為梟とかきたり○俗に梟首を獄門といふ其場を称ずるに枝葉略記に梟浮囚安陪貞任藤井経清等傳首京師繫於西獄門とかきたり

くしはかり　古事紀の奇霊なるものなり此神に対し奇霊なる延佳奇霊神とかきたるハ非なるべし八用言はとゝのへかゝすと奇日奇魂は例なり少彦名命をかけり

くしはたなり　源氏に戀の山はくしはたなる山ぶり抄に引たり

仆迫俗に弦のつまつまといふは同しことなり

△くすり　古事記に国栖八神武天皇に時々来献して役をなせり俗に節會に国栖奏として世く絶を延喜式に献御贄奏歌笛毎節以十七人為定とかゝ北山抄に国栖奏古風五成兼平記云其笛似以指摩孔とかきたり園大暦に永仁四年正月七日罷國栖坊家奏とかゝ江次第に一献國栖奏二献仰御酒勅使三献内教坊別當奏舞妓奏とかゝ

くすり　薬といふ草もろゝ薬は字艸に从ふ同しく弦草は内に草なるを多くは薬録にも草といひ俗へり○延喜式に弦草は貢及優名抄に載せし薬草も今悉く詳らかなり天文中に吉田宗桂明に入て名を得たり明人意庵と称ずるに和薬を識別し性味を辨ずとかゝ○唐列仙に薬醫門といふ庭に左右に二柱を立て扉をし醫家は門造なりとそ○内裏式に十二月晦日中務省申久内薬司乃供奉礼留元日乃御薬又臘御薬進良久乎申給久止申次宮内省申久典薬寮乃仕奉礼留人給白散又殖薬様進良久乎申給久止申とかゝり○薬殿は御銚子は破損しをり雅忠典薬頭なりし時彩十を銀を古をよ雑へうちかへして供御よるべかりとかゝり○

全渤兵制ハ薬丸ヒマワリ薬包ヒマワリ茶箱ヒマワリ薬囊ヒマワリ薬囊ヒマワリ薬囊

此儀式は延喜三代実録陽成天皇の七年より始て行る御祈の糸所
供奉薬を撤去年九月菜萸以薬玉差替御粧前例と云ふ絲糸
を造る事は清涼殿の御簾の後にて此糸を
ゆひて長寿を祈る道長公の記にも絲所薬玉持参と云へり
薬玉を作る式は薬玉と云る○四月中申の日は若宮八幡の神姫
宮八幡の神なり紀よつる御寄八ッ九ッ此内也○法皇
草の御帳よりかけ出る薬玉も長月に菊を取へらるゝ菖蒲
と云菖蒲の根をなりまてもかるゝ枕草皇太后宮の御帳に
御帳の内に菖蒲薬玉をかけ侍りけるを根をなを
をそうけ法を解ぬ此ものは高麗の根をなを
乃御帳をゆみしをうしとゝ云へり
くをとりこ　元日は屠蘇酒を先嘗て供御はなる此童女をもつて定
式はんをうり薬子勘文八陰陽寮より進るを沈香雲圖抽
り薬子總角例童子装束と云ゆ事かれ若をは四民月

令は云へり公事根源は御薬は後式弘仁中は始る是と既は天
武紀は也り○藤原薬子八平城天皇の尚侍贈太政大臣種継之女
くをとりがり　推古紀は五月五日薬猟於兎田野と云て方藥集は多く
はり鹿茸を生て百薬を採るへし天台訪隠録は以端午日
入天台山採薬と云へり此日菖蒲酒を
神宮は供奉る儀式帳は云へり四民月令は菖蒲酒を
御膳物は
菖蒲刈君八沼はそまくひ多る所野は出て猟を密しき
と云て雑を云へ遣者
くをとかしは　日本紀は模字を訓せり奇字は云へ置をひをとかしま
をもをは
△くせ　癖疾を云へり毛病は字書は癖八嗜好之病と云へり晉書
は王濟有馬癖和嶠有錢癖杜預有左傳癖又王福時譽兒癖黄魯
直香癖李渉竹癖等と云へり或は癖事と云へるものなりに曲を

○諺に人に一癖といふ意なるべし和尚は何ぞ人をして一つはしらせもせもとなるべしゆゑに安堵せしむ
奇うみはしらせもあり法師は緣行乞をしてうそぶくみし和泉式部
ちりうきてうみをしの時をかれをみてこころはしりうそぶくみを道綱
は母は煙を背きて貝をうづて業しるを系とそ山谷の詩に閉門覓句陳
無己對客揮毫秦少游といふことしらぜり　伊勢物語に人あるもとに今語也多言也といふ義解に謂多言也といふ
戸令は弃妻七出は條に口舌とあるこれ義解に謂多言也といふ
徑に舌者鑿身之斧也とあるこれ北齊書に當有口舌事とあり
くせん　五位以上は官位を授らるに頭辨を召て勅命ありて辨に宣を
調て上卿に達せ楊文公談苑に宣勞賜曰宣とあるこれ○こせん
いんは口宣案也頭辨より上卿へ達せしに宣を其家に納て別に書
写して大外記に遣はすをいふなり
へくそ　糞をいふ臭きを人を罵は糞ある也○俗屎をくそ

いふ崇神紀に其卒怖走屎漏于褌乃脫甲而逃とあるこれ○字彙に
惡糞穢也越王勾踐爲吳王嘗惡とあり○兎糞を明月砂といふ野鴿
は矢を龍盤龍といふ鸕鷀は矢を蜀水花といふ雀は糞を白丁香と
いふ蝙蝠乃糞を夜明砂といふ寒号虫は糞を五靈脂といふ蟾蜍の
糞を土槓榔といふ蚯蚓は屎を六泥といふ皆三字を呼ふ
あるや六經は緯もまた三字なるそいかやしさ又猪零鳴通蟻泥蠶
沙鷹條牛洞羊点等は名もあるこれ○京師俳諧歌は狂歌よくそ
里物は源氏物語に女屎とあり源氏物語に いづくにかたち琴を
又腐守はそいづまは記にいかもうつや物語に京にそうちは和物語
りこそくくくそといひきるを人とあるこれ
あるこれ源氏のおは貫之が童名内藤房は阿古屋とあり
くそまは　祈代紀は大便又送糞とあり萬葉集に屎をくへ麻呂
とあるこれ○くそ食して大便せざる穀瘕といふ邪邦は不大便
三年食如常といふ病なりと

くそふく　蜻蛉日記に[illegible]

よ人作り

宇[illegible]

△くだ　管とあり吹わ[illegible]

[illegible]

機[illegible]

くだく　祈代紀に摧とみえたる破碎といふ竹管とくだくハ[illegible]

つべき[illegible]

くだり　一くだり二くだりなどいふハ行也[illegible]

紀に章もあり拙[illegible]

り幾くだりとなるハ領字也一對[illegible]

くだる　下[illegible]

くだち　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ゑて落つるなり○神風抄に建暦二年所被下院廳御下文也とも云へり朝野群載に政所御下文とも云へり

くぐれ　倭名抄に小角に訓せり管れ筒といふなり形如竹筒といふなり日本紀にくぐとあり新撰字鏡に筱とも同じく正韻に竹簫とあり

△くち　口にくちなし也たしなち也食物を腐熟するを名くちといふ○傳子口銘に禍從口出病從口入とあり○倭名抄に鮸をくちあり今いふ石もちなり○鷹を韓語にくちといふ日本紀に倭名抄に俱知西字急讀屈といふ百濟に鳩をくちといふ是なり故草鷹れ一名くちも鵜鳩といふなり後世新羅沿はまのといふなり今れ朝鮮沿はまのといふなり

くちなし　朽葉なり○淫なるもの也又赭黄色也又きち朽葉なり黄朽葉なり赤朽葉なり捨き葉なり くちなし名れ紀にきもとなるそ樂しきき

論語に朽木とあり○朽木れ枯れたるもの成ハ梓なり○朽木れ枯れたるもの成ハ梓なり新古今集にくちなし○朽木杉の杌下ハ建暦御紀に見て朽木形れ疊ハ禁祕抄にくちなしとあり○日本紀に梅とあり枚に同じ口木れ名くちめ　神代紀に口女即鰡魚也とあり口疾なりとあり成て名くするなり○枯茶紙なるもの名くちなし

器部に朽目とあり和琴れ名也とあり姥玲見紀

ひさごひるとあり成ハなしまお塩れ寄れたるもの名ひさごれ

くちなし　朽猪れ寄なるへし口猪と書ハなし

くちびる　唇とあり口縁れ寄なり新撰字鏡に口れ縁とあり下唇ハ地閣なり○手指れ結に口びるとかへしてそのくまぬとれそなりけるとあり

西土にも反唇と書り○結に唇薄きもとハうくぬとあり霊樞に唇薄輕言とあり

くちがき　招草とあり口書れ寄

くちさき　口利とあり宗長抄に口さきとあり少きとあり

たるらへにさくなりしとんてとう利口れ字あハ論語ようゆ
くちうを　巫ようふ祝うて西土ようは鸞りのよ家おれ俗ようたをれめれをな
くちうくいにうをようをとうて台記ようを寄帝巫口とんてとう亡者れ魂を招
さ己うにとかうてそうをを述うを事を論衡ようもんて彼巫女懐中をる後
佛ようふ若ハ異相の人乃をれからべうて遊ようるもいう所謂縣巫れ所業也
こうちをふ　加茂保憲女集元日れ事ようあゆれにうをいくしみとんて古伝
日記ようかしあゆの口をうをうをんゆ天竺れ頻婆沙羅王れ太子提婆れ
嬰兒を化成を抱てにを吸を乳をすをうを半なり史記ようを嗜呪遊仙窟
う得口子をうをうあり親黨をもんてをうう
こうちをうふ　餬をうあり口ようを貰ふれ多くを新撰字鏡ようを張ようをうをうをを
みを寄食也をうを
こうをうをうら　偏名抄ようを吻又喙をうあり口裂れ多へしをうを口裂れをもいう
源氏ようを辨舌をゆをけをさきうをうをうをを新撰字鏡ようを咽をうをうを
をうあり口端れ多へしを吻也をみゆ○口語ようを口をうれ多なる若をうを

多雀をうを出をう雛れ吻をうをを思をうをぬをうあり
△くつ　履又鞜又舄をうあり靴れくつ鼻切皆深皆深皆なをれ居をう唐韻
う草曰扉麻曰屨革曰履をんてをうう延喜式ようを凡公事公會れ所ようハ悉く
靴を着又公卿れをうすをを笏をうを人ハ雨泥れ日靴を着くうをんゆ○唐
令ようを舄重皮底履草皮底をんて令義解ようを舄者高鼻履をんて漢語抄ようを
突子鼻高履也をうゆ○新撰字鏡ようを鞜をうれをうびをうあり○軍
家ようを岩沓をいハ字を造う嶮岨をふむをうをうを○履新しをを
冠をれをいハ法苑ようを冠雖敝冥加其上履雖新冥居其下をんをうを
くづる　崩をうあり潰墜れをうをうを○くづを川を紙をようを九頭龍川をう
くづをる　源氏ようをれいをうびをれをうひをうびをうをんをうを行阿れ假字遺ようを
をかくをうり顔をいふ崩を折れを成へしをうを
くつろぐ　左傳れ点ようを寛をうあり莊子ようを徐則甘而不固をいふ甘字ハ
をうあり緩やうをうをうを彩六帖れ奇をうをうあり源氏ようをうをうをうをがをうをくを
拾玉日記枕草紙ようをうをうをんゆ○俗ようを安居をいう

ちつぐみ　倭名抄に鏢とあり倭よりことゝふるもゝとあり口食はせるこ
ゝみハ馬銜はせるこゝ今ちつといふ是なり新撰字源に八鏢をちつこと
ゝみ鏃をちつはれ鬼とゝみ霊異記に繖とあり○延喜式氷室雑用に
條り鋲をちつこと釘せり氷をちさむるなり
ちつちつ　倭名抄に繖とゝみ倭よりちつちつとゝふるこゝより新撰字源に
勒又靶ともあり口輪連はせる歟へし今ふ手綱也とゝり○袍は織物
りちつちつといふも奇に涌せりちつちつ是形をかゝちつる織もるもの
也を論はなきをちつちつとゝふ○娼家よりちつちつ名はるも繖なるへし多
くは處女をちつめて廓をなすべ馬は繖はるゝめし一説に天正年間
林某なる者伊勢に柳巷を開きしに円形地を十字に割て家造り
をを形狀鏢のゆゑしてちつを町と呼なるをかとゝもゝり○老鴇
とゝるハ是に同に純雌雄無雄與他鳥合とゝんちつり
△くゝて　湫字とゝあり尾張は地名に長湫はり弟に大久豆細久豆
あり集韻に北人呼氷池為湫とゝり或ハぬまとゝあり穴注手はゝ

△くゝど　倭名抄に窓とゝあり竈後穿也と注せり仰紀抄倭よりかまどゝ
三へうり給てちくくゝど伝はけてとゝんくゝり或ハ行竈とゝあり墻字に
韻書に爨とゝ○式に大和安平群郡久度社に今久土村とゝり
ゝどく　口説はゝくゝハちれ時と口吉口偽なるは音とゝ書く物語なるこゝ
かゝちゝどくとゝんくゝり○くゝどのくゝどゝりけるゝ結も同とゝる歟〜○口語
り功德は音也とゝり
△くゝのど　岐神はなゝ号を来名戸之祖神とゝあり神代紀に道
主に岐神をちゝのどはかゝともゝり古事記は衝とゝり書紀に
ゝ八ちくつきハちへゆくゝんゆくゝ八来経也とゝへゆくゝ八来経行也
ちゝハちくくゝと同しくゝちくくゝと同し此を経て来るとゝふちくくゝ戸八所
也とゝり○辻祭を岐神と称せり半扶桑畧紀に見へたり
△くゝ　邦國とゝあり與とゝみとゝあるとゝて相與とゝる地をゝるゝ
神代紀に六合とゝあり八嶋国とゝゝむも同意也日本紀万葉集に

郡縣鄉邑をくにのみやつこのあたいしこれり
くにたみ　國人とかくるまゝ八法藏院れ所諱邦仁なりゆゑよりを
避てこれをみしの流例こなりしもとこれり
くにつものの　日本紀ニ毛をこれり土毛まこと信物も同し方物も訓へし音
經れ産る方土所生之物とこれり　○ふれをぬ八調れ絹ぬ
くにのみかを　地祇をいふ万葉集れ神をくにつかみとよびてこれる
ゆ近江ゆ日吉社れなりこれり一説にこれり八ゆを指これり儀式帳ニ
ゆ度會之郡國都御神社とこれり　○ふみ八國産れ貢也とも
神社をこれるもれなりてふみ八國産れ貢也とも
くにたのつかさ　國司れ貢也ゆ八音をもてこれり國司八守介掾目ニわたり
てのつかさをもて日本紀ニ國司守ともあり司八官府ニ就ていひ
守八其人ニ就ていふ國司れ称ニくしく俗ていふ八伊勢乃ゆ八曾家應
暦元年ニ天正四年まて二百廿九年ニて七ひこれり　○国司を國上とも
ひし事霊異記ニ命今ゆ守れ
くにたみとこれ又ゆ國司をくにたみとこれり

くにたみやつこ　日本紀ニ國造をこれり後世れ國司乃ぬし
ゆ宮ゆ社をやつこれ名ゆりといひまこと也を寄ゆ造りこれを
くにづこをこれて事を主ぬもいふ八ゆ也ゆ八ゆ
人等を惣称ニ八必寸ゆ連伴造國造ニ並へこれり國造八諸ゆ
ゆを治ゆ名ゆ今音をもて呼ゆ也ゆ八出雲ニ乃ゆ也ゆ
前備中吉備津宮因列守都宮ゆ也同し　○孝德れ御宇ニ国造を
郡司ニせられし八神事ニ称ゆ乃ゆ也ゆ文武れ時ニ神事ニ也ゆ兼ゆ八ゆ
もてこれかくて後神事ニ云ゆ也て公事ニかくこれり八桓武れ時ニ又
國造八神事ゆこれて別ニ郡司置ゆ也ゆ
くぬぎ　日本紀ニ陸をこれり八ゆ
くぬち　万葉集ニ宮中をこれり八ゆ
くぬがみち　日本紀ニ北陸をこれり小海乃ゆ
○北陸宮と称ゆ八ゆ今ゆれ紙中宮殿ニ也ゆ
八ゆ移ゆ　古今集序ニ浅みをこれり小野れ頼風れ

旅寝をいとをかし

枕草子に女郎花あれこれかまへて一時と
とゆる所なるまめ紀そる女郎花ハ女性なれども〻しなし繰繰れ家なる
色〻とりて咲るとゆふ所なるそ移る涙に袖をもこそ
△くちえかう　源氏ゆゑ薫衣香に物をしらぬえかうもこそ
△くハ　蔡君謨縛ゆゑハ宮沼捨きよ〻くこそ平家物語に源氏
ゆゑ色ハ染せと也〇桑ハ蚕に食ふ蚕ハ桑を食ふと名づけなりこと
こと蚕すこハかひこ　まゆ〻く白桑也　ひめぐわ女桑　こ子桑
くハいちご　迦桑耳ハくハたけ　山桑の名漢も同し　麋也とゆる新撰字
鑄ゆ　梗　かくとめくハとめ　ハ白〇鏵ハ音ゆ　倭俗ゆ
ゆ　唐ぐわ　鏟子也

くハ〻　日本紀ゆ妙字古事記ゆ微字　ゆみ考ゆ委字精字　ゆ
加ゆ　ゆ〇勇ゆ　くハ〻めゆ　紀ゆ　ゆ細字

くゆ　合ゆ　ゆ　ゆ　

△くひ　日本紀に櫼橛杙などあり方言集に杭とあるハ本元枝也と注するよりかりて倭名抄に杭と訓とへ〜○咋ちくも日本紀古事記ともくひ　織綴喜郡に咋近ハ萬葉集に馬咋山とあるを○蟒蛇と訓るハ倭名抄にみゆ牛馬に注中に虫と注せり

くび　神代紀に頸とあり頭莖也とあるをかくみ　くびとも首も領も同し後世くびとも斬る頭とも〜〜○人に弱くと注せるくびかたくなり○軍中に辞にをくび首ハ

くひぜ　倭名抄に株又杭と訓り古事記にくひとあり本草に新撰字鏡に柮也櫪也とあり○株を韓非子に株ハ兎走ハ

波古ゆ　くひに注るくひ杙に兎をくひもとまつ〜〜

くひぢ　倭名抄に蹤とあり獸を捕に械也と注せり杖路に杖如へ〜

くびす　踵とあり跟も同し倭名抄にくびすとも倭名抄にくびすに新撰字鏡に踝とあり趾も同し

くびき　神代紀新撰字鏡に縊とあり○絞刑も同訓也古事記に絞殺とあり或ハ志ぼりくびとも西土ハ帛を用うるとあり条に従ひ引き索し又経殺とあるくびまるくびなり

くひうち　倭名抄に椓を訓せり古事記にくひうちを奇とあり

○書正義に男子の陰為勢與椓去其陰事亦同也とあること傳に宮淫刑也男子ハ割勢とあるを詳にせ〜也

くびたま　古事記大神宮式に頸玉とあり日本紀に瓔珞を訓せり今音をとり記に御頭之璵とあるにあ○今猫犬に頸に懸るまを

くびしろめと呼も此遺名加へ〜

くびかみ　袍に縁領とあ首上に義にあ或ハ頸紙とあり又くびかみとも

くくり　狩衣にもいへり

△くくふ　新撰字鏡に咀又哢又噍とあり神代紀に齧もあり食ふを略する詞なり

△くべ沙　注に納云とあ焼とあ須とあ日本紀に助加とあ

くへとゝめり仮拾遺集に紫折くぶるとぶし

△くぶ　日本紀に踵とゝめり霊異記に四とゝみ拾列東生郡撫四村
とゝゆ○埃嚢抄にくぶは女陰也芙名といへり霊異記に閼とゝみ新
撰字鏡に屎とゝめり開也とゝゆ又塊とゝめり土四也とゝゆ
くぶし　洟字窪字とゝめりくゝゑ新撰字鏡に汚とくぶかゝとゝめり
いへり新撰字鏡に汚とくぶかゝとゝめり窪手也又椀案を折也針にて破ほ
くぶて　延喜式に葉椀とゝめり窪手也又椀案を折也かゝいはくぶてとゝゑり又
はぬくに鉢に拍とゝいへり相撲節に神事かゝいはくぶてとゝゑり又
式に窪坏といへるもはあり瓦器にあり木器にあり今盛皿を稔をる相
そはを制ありしやといへりうか拍徒の所り
神さてゝも安とゝなりふ〜笠るに神社多かるくぶてとゝけをゝ
笠宮神社に祝部祭りにあり実方集り
天りまの笠宮神社なりせふりにしゆをいてゆるん
くぶさ　日本紀に利字とゝめり文選に羸をくぶさとゝめるも同し文

選に羸に利也とゝゆ
くぶふる　七夕にゝめり窪舟なへし方系集見安に小さ舟也といへり
一説に具穂舟とゝる具は其に誤同所に本紀にも其世中にゝるへき其
説も具に誤也に照し澄とゝしくぶふる舟也といへり
△くぶ　阿曲隈なとゝめり阿は屈曲に隈は水曲に新撰字鏡に瑕
に嵬も巣もゝめりはに巣にゝめる紀にくぶといへり紀にくぶ
くぶとりは西土にいへる量子也とゝゆ
や○兼好にはくぶなさとゝゆるものかゝと半月東坡に春宵一刻直
千金花有清香月有陰乃句にかつけるなへし○前は日本紀にくぶとゝゆ倭
名抄に多〜○熊にいへる全身黒毛腹に白毛あるとゝゆ
はくぶ　はくぶ名とせるなへし新古帖に
奥に住あら熊はの輪にゝめるとゝゆ
一説に日本紀に熊川とゝゆ
なへしゝも〜今新羅人くぶとゝゆ○蝦夷は熊に色黒は流

とも用ゐなり　膽もまた性劣るとそ　○黄白なるを白熊とし　黄赤なるを黄熊とす　○熊の珍奇とす　○和名抄に熊を熊と称とも熊は強大なる獣なり　西土の馬とゐのごとし　○熊蜂くまばち　○日本紀に奠とあり　熊神　熊離　なとゝ　○熊野　○神代紀に熊野　○熊野　○熊野　○

皆組れ給ひ○與とも書て訓ませ○ゆるしもとゆるしもあらく和と
和文ふとれ文れ八海とも書も斟とも書も挹とも書も組れ給ふ亜て組八
法の字の和訓なり○綺みもいて拾集まつらこ
こやこはこ○芽ぐむ角ぐむ涙ぐむなとゆるも涙を泣へし○酒ゆ砂とも云へし人ゆ與とも云へし膝ゆ
交とも云へし塔ゆ接とも云へし○公務れ音もいて
くもしら　日本紀ゆ澳區とゝみ新撰字鏡ゆ澳をよめり埃嚢抄ゆ
隩區とくしらと法ふ八ゆくよんれけりくちまとふ組加へしといて
△くめ　貢馬れ貢し樹津ゆ樹津ゆ樹を出て○茅萱集まるをすゝきあ
とふ組けり尾くめ繩れとも○琉球ゆ久米流り續日紀ゆ球美とい
ひ明人れ古米といふなり
くめべ　来目部八上古武人れ給し古事紀ゆ大来米命黥利目と
いふのなれ八ふく目れ多加へし目とふ勇猛れ体を名とり西土
ゆそふ五代ふり後兵八其面を刺て民ゆふふりし○久米紀ゆ通を失

ひし事八處胎經ゆふ吾紀人姦空而過見宮女之浴池失通力落
地とゆふを加へし
くめぢれとり　久米路れ橋也久米れ岩橋ともとり役小角葛城山ゆ
石橋を架せし時ゆ一言主神を役使せしを小紀けりて
あり載とり一言主神れ雄略天皇を送りて久米川ゆ元亨釈書
日本紀ゆふ八山紀を造りし事か
れゆ役小角八賀茂氏なるふり可林良材ゆ長とり廢帝紀ゆ一言
主神を高鴨神と称せふを彼此とり合せてかゝる妄説を加へし
○信濃水内郡ゆ同名あり拾集
理也本中ゆ
絶景れ奇巧也水内れ名も亦山水ゆ
又武義八同歌ゆふり義貞ゆ高時れ和と戦ひし所ゆり
くもと　雲八隠るれ義なり雲八石とふ雲根れ名なり○神
代紀ゆ雲氣もあり雲れ棚かくも八雲下掛れ義と○雲れまがさ雲

けむぐり　雲の起るを云　みつ雲　みづ雲　みを雲　みを雲　みを

打殺しもゝ殺ハ搗乃掛もり杵ふこゝ殺ハ絞せ〜
搗りいふハ襲ハめゝ地乃上り搗かゝ〜ふこゝ組ちゞへる形ハ掛
乃ゆ似るなり倭軍象集ゆ

並立ふ松ハもづえ波くもゝてゆて霞濃ふる天ハ〜立

○一説ふ搗ハ掛ほとつくふハ蜘ハゆふ粉ハ〜ゆるようゝてなり
といり○昔〜ハ搗ハかゝ〜ハ今ハ遇妻川也ゝゝ更級日記ゆ
ハ搗ハ名ハゝして搗ハゝるゝ似〜ゝゝ(ゆ)○鎧ゆいふハ指物金ゝ西土
よいふ上り字架ハ形ゝ燈械ゝいふも其形の似るなり○鎗ハゆゆく
ゝゝかくなるゝいふも蜘手結菓ゆふんゝゝるなり○人ハ氏姓ゆい
ふハ口分田ゝゝあり口分田ハ今ゆふ〜口ゝゝて田ゝ班てハ尊ハ大
臣卑ハ奴婢ゝゝゝゆふゝし又田界ゆ掛なり

ゝゝもゝり　綾ゆいふハ雲鳥ゝ交へ織ゆ〜也周邦彦ゆ詩ゆ雲雁
綾百詠注ゆ雲鶴綾ふゝゝり
ゝゝハゝ孫　陶淵明ゆ詩ゆ夏雲多奇峯ゝふゝゝり史記集ゆ

みゝ殺ゆなりめゝふゝて大ゝゝゆ〜ゝ殺ハ殺ハゝゝ殺ハゝゝ郷
ゝゝもゝゆめ　雲夢澤ゝいふなり拾遺ふ名ゆ
ハ清ゝ移ゝ目ぬ新ゝゝ請紙ハ雲ハゆめゝふゝ紙ゝゝ
ゝゝもがゝハ　雲源乃氏字ハめくいふハ雲がゝハ〜ハ事ハ新ハ新事
○道世又ふ雲ハ事ゆいふ源ハ雲ハ雲ゝゝハ雲ハ雲ハ雲

を愛宕郡まてうぢのこの和名抄に
くもたちのこと　雲立涌と書り仙洞親王拾遺抄袍に文よりの字を拾
遺よりとの立涌雲とも見ゆ○龍膽立涌なり拾遺抄に
菊立涌なり○類聚雑要に建涌雲透拓物と見ゆ
くもたちるまひ　古今集序に奇なる伽の拳動也て日本紀に奇
よりくもたちおこるひさんてくり都せとうくもたちくもひなりとゆみしゆふ陰機
詩疏に喜母此虫来着人衣當有親客至有喜也幽列人謂之親客亦
如蜘蛛為羅網居之是也と見てくり○雲に立舞をくりくもの
長歌をくり

○風をくくる雲をくるまひくなくてかくてまくりくくるくもたちくへひと　雲上人也約延に侍臣を雲客とも殿上人とも称
せり雲客は六朝文よりくくり史記に高君能致於青雲上と○琉球
に親雲上をぺちくんと称を官名とし

△くやし　悔をくやしゆと

くやす　萬葉集に潰をくやすと日本紀に崩をくやすと書
に崩をくやすと萬葉集にいそぐくもくもあり今俗に崩をくやしと

△くゆ　日本紀に悔過をくえくくとくみくくゆ音をくえ及けくそけくも
くもりくくゆ八音を訓とせるあるへしくくえくくゆ八同語くくゆ
折樹をまりくくゆくくもくゆ八けるもくゆ○潰をくゆくくゆ八同語くくゆ
くくくく

貝繼うり紐ゐとふ貝繼ハ大坪道禪ゐうゐ作ふといふ○かひらゐハ螺鞍と○ひとくらゐ或くらゐといふ俗説ハ座位ハ或なるべし○廩ゐとあり

くらゐ　位をあり續日本紀ゐ座坐と書せり位ゐ四分ゐり一位ゐり三位まてハ正從ゐと呂位ゐ下ハ皆上ゐ下ゐる也○韻會拳要ゐ凡所當立者皆曰位又立位同字云云春秋公即位為即立云云○神位と進めたまふ位紙冠をまゐらせたまふ也ゐり冠位ゐ稱ゐこと也○位ゐハ朝廷ゐり発彈ゐ出ゐ名ゐも呼ゐ云帖ゐハ位ゐ位ゐなる位ゐ也ゐとあり安曇磯良弾と堺ゐ出ゐて殺ゐり

くらゐ　暗昏といふ意ゐと通す○和泉或紀ゐうゐ紀ゐうゐ紀ゐ

ゐり入ぬへきとゐるハ法華經ゐ文也源氏ゐあゐとゐうゐ

晦迹ゐ紀ゐ行かゐうゐといふなり

くらふ　食をゐあらふ反ゐ喰ゐ牽ゐ紀ゐ琴ゐ出ゐ琴と喰ゐ同ゐ作

代紀ゐ喰ゐうみ靈異記ゐ啗をゐみ新撰字鏡ゐ喫をあり○ゐらハ

ゐむハ今食也餌ゐ通せり○ゐらすハ紀ゐうゐ細人ゐ打をゐふすと

いふゐ西土ゐ喫棒と見ゐ作りゐ訳ハ喫ハかうゐと訳せり○薩州

乃鄙語ゐ人ゐ物をゐんかとゐ紀ゐんぞんとゐ紀ゐうゐ

ゐらげ　舊事紀ゐ水母をあり古語ゐ水母目なりとゐハ暗き義ゐり

と也ゐ文選ゐ水母目蝦ゐも也ゐ春夏ゐ同風波ゐ陸ひて出る海蟹と

いふゐもゐんて水母ゐ附て来ると也ゐり○海ゐらげも骨ゐわゐと

天狗ゐ出ゐる事ゐ也ゐり出ゐ事ゐ也ゐり

海月ゐ海蛤類也ゐ○七五三五五三ゐ紀ゐ食ゐり出ゐと

崔氏食經ゐ海月一名水母ゐ云ゐ閩書ゐ海蜇ゐハ

海月ハ海蛤類也ゐ○七五三五五三ゐ紀ゐ食ゐり出ゐと

第一ゐ手ゐハ鄙邪ゐ天地ゐ始ゐ云ゐ魚ゐ名ゐ紀ゐうゐ出ゐる物ゐ

なり○水ゐらげハ水地也食べゐ手筋ゐ

丹後宮津浦ゐらげハ紋ゐりと也ゐり食用ゐすゐハ唐ゐらげゐり抑ゐ

げゐと云ゐ肥前ゐ唐ゐらげゐて食ゐハ赤ー肉厚ー

ゐらとら　姓ゐ車持ゐり京ゐかくゐあゐるまゐらし

くらんぶと　蔵人とゝめりくらうどの略なり俗よくらうづともいふ蔵人所五位蔵人六位蔵人なとあり○六位の蔵人極臈の殿は麝香の袍を拜領し忌用す極臈の殿を殿上人といひ蔵人を殿上人とつゞめいふなり○式男蔵人とあり寛平小式よりはじめて蔵人所の蔵人所ともいふなり源氏夕顔の亭にも有けりとあるなり○第三に民蔵人といふ

くらだり　日本紀に座下まる下臣とゝめり座長をくらがとゝめるに対す

くらふる　競をゝめりはじくらべかくらべ物くらべなど見たり

くらべむま　競馬をいふ今は音をもてそゝり文昌雜録に軍中以端午走馬謂躍柳とあるなり○六角天皇行幸類聚雜要に保延三年仁和寺殿競馬行幸とあるなり今かゝる事なし赤黒の打毬樂狛鉾の略なるを和名抄に毬を平中略記に平中略記とあるなり

くろかつす　源氏に夕顔官職の事を女文ゆゑなりくろかつすと

ろかつすと拙なるなり致仕の官を辞せず罪ありて官位を停めらるゝを別の事を女文なるすと言事記續紀にもあり官位をもとゝて官を位といふをゝゝなり此古語なり

△くろ　應神帝の御宇にくろとゝたまひしを綾語にくろとゝいふを今も細石をくろ石といふなり○涅をくろとゝむは黒の略なり涅黒土也と注せり俗よこれを涅鉄といふ○新撰字鏡に黥もゝめり深黒也と注せり○栗子を名くろはゝ黒きといふなり又くろは稜角をいふなり三稜草をみくりと訓を石をいふも同じ日向風土記に俗謂栗為區児とゝくろ

○延喜式に搗栗子扁栗子煠栗子削栗子赤目栗子扁栗子八月九日に栗をくらふ事は熙朝樂事にくゝ栗扶くとあれども栗刺くりはいがの優名なるくくり扶は本草に萩に作るもいぶかし也栗刺は本草に毛毬とゝくり俗に杓子と称するは栗楔也とゝ○栗虫は形九くゝ白しくゝ栗虫に見たるなり

と喩へいひ又似栗虫とゐひ人參よつ〇厨とゝむいくりやは暗くり
寺院は香積と称ゝ庫裡は唐音也とゝ書言故事よ稱齋厨
曰香積之厨とゐゆ
くりや　和名鈔よ厨ゝみ庖屋也とゐ俗黒屋は家なくゝ新撰字鏡
よ厨をまれくりやゝゝめゝ八魚之〇日本紀よ廚ゝあゆ炊烹は人を
いゐくり仲文家集よくりやゝあたゝゝみてゝゝ有りくりや
ハ浦ハ紙別よくり厨川ハ奥別よくり栗屋は城ハ紙家ゝ
くりぞめ　日本紀よ皂ゝあり涅染は家也〇くりゐとゐも同義ゝ
くりこゝ　諄字は繰言は家也字ゝよ諄ハ誨言重複也とゝくりゝ
△くゝ　暮ゝいふ古今集よくゝとゝくゝゝゝあり是也〇日本紀よ韋
ゝゝあり韋ゝくゝとゝいふよ同し書籍は韋編絶韋ゝ編は簡ゝ
襲は襲ゝくゝとゝいふも同し〇倭名
抄よ繆ゝあり綿糸なゝにいふ是ゝ又赶ゝあり〇刻ゝいふくゝ
さゝくゝなゝといふ是也〇蝦夷よくゝとゝいふ部衆は家也とゝくり

くゝ　暮ゝいふ万葉集抄よ日は暗くゝ八暗くなる為くゝ也とゝ
いふ也〇日本紀よ養字ゝあり食よ飼て養ふ同し〇紀御巻よ人ゝ
ゝくゝとゝ為くゝ　神代紀ゝ司以授事とゝ養ふくゝとゝあるも同し
くゝとゝいふ同古紀日は八ゝ為ゝ也〇くゝ八轉関也ゝ為ゝ也ゝ
也牽は家なくゝ今くゝくゝゝ也とゝ万葉集よくゝ釘さゝくゝとゝあり
源氏ゝくゝくゝゝ為窟ゝ同し
くゝふ　日本紀よ狂ゝあり旋渦はくゝくゝ有よ活ゝくゝゝ為今くゝくゝと
とゝ有ゝくゝゝ反ゝくゝ也〇霊異記よ託宣ゝくゝあり
くゝ　苦ゝあり繆ゝくゝ有よ又窘は物音ゝ為ゝゝ訓ゝくゝ
くゝくゝ
くゝま　倭名抄よ舸ゝあり射鳥矢は名也とゝくゝ俗ゝ為ゝ有り物
字は色ゝ〇倭ゝくゝくゝくゝくゝくゝくゝくゝ有ゝ同し〇上結
は御下は名ゝくゝ
くゝま　車ゝ訓くゝ轉輪は家ゝとゝくゝ鴨毛車は江家よみゆ

むろ　俗語に凡車ハ唐廂（カラヒサシ）桙榔毛ホハ皆桙榔ニ成ル　尾眉半部絹代
ホハ皆ハ〇ヒロ〇ヒロ〇海人藻芥ニ唐車飾車糸毛車賀茂祭ノ日
典侍乗之渡二條大路也唐庇車仙院或親王或執柄被宣之檳榔
毛車已下公卿乗之ヒロ〇ヒロ〇車ニハ五位ハ六位ハ下
ルヲ人ヨウテ引ケルヨリ法曹至要抄ニハ〇宋元豊中ニ我國
ハ車ヲ高麗ヨリ献セリ車文品雑録ニハ又新古今ニ車ヒロ〇ヒロ〇
駕セリ車ヒロ〇ヒロ〇ヒロ〇ヒロ〇群碎録ニ三代両漢用馬車魏晉至陳
梁用牛車ヒロ〇ヒロ〇後ヘヒロ〇第車ハ倭漢同ヒロ〇大八車ヒロ〇ヒロ〇ハ車輪ニ大八葉
小八葉ヒロ〇ヒロ〇車ヒロ〇ヒロ〇名ヒロ〇ヒロ〇ヒロ〇ヒロ〇也天工開物ニ獨推車憂華録ニ浪
子車ヒロ〇ヒロ〇ヒロ〇ヒロ〇〇車坂ハ今熊野ヒロ〇ヒロ〇稲荷ニ猶ヒロ〇ヒロ〇ヒロ〇ヒロ〇ヒロ〇ヒロ〇還坂ヒロ〇ヒロ〇
ヒロ〇ヒロ〇〇伊勢奄藝郡久留真神社式ニハ呉津女ヒロ〇ヒロ〇ヒロ〇ヒロ〇ヒロ〇ヒロ〇

○ことれとぞこれをとゝのふハ是ハ呉ぶへし○呉をくれあるハかの国より渡る
る藤氏ハ久礼波久礼志ハ二人をあるべとせり事無神紀ようこうより
てかくいふくる也呉人を置しを呉原とゝのふ古事記日事紀ようこの大和
高市郡也古ゑより

ゑをとゝゑて呉ハ来ようり始日ひとゝをとゝゑたるとゝ

○材木ようゝ木斬ハつぐまりゝゝゝゝゝや後式帳ようゝ材をゝゝあり三代実録
ゝ榲博（スギノクヒ）定家卿ようゝ檜博（ヒノクヒ）清水ようゝ檜博（クヒハシ）階新猿楽記ようゝ安藝博なと
ゝゝゝゝゝ又櫛ようゝ後名抄ようゝ壁柱也と注せり字異うして意也
と後拾遺第ようゝ暮をかようる奇

ゝゝゝゝゝ

れ緣語なるべし

つまびらか　縿迄くれを西土れ文を多くとるべし諸を詳せ

正方案集り

書きたるあてとられぐくとかなるべんかりそいなるよ

つまびらか　日本紀に吳織をうみ古事記に吳服をとあり○奇れ屬

辞をとれはとりあやさいの八吳織穴織とあるのはやとをす淫れ

義なり又吳服綾延喜式坂撰集に見えたり○これはとりの川伊賀の

紅かぐ弱に塗り元方れ奇なりとかいりもとりはりもあり風土記に久れ

波之登利須く杵ハとんとり

つまたかり　姓氏錄商長首れ下に吳國雜寶物爲交易其名云波

賀理其中有吳權とんとり

つまたかり　あとめりあつてやうに義とかるる

つまたかれ　無れ海とかるる風　又用元遺事に揚き紀の故事なり

古今集り

ほとんとしあるとも年をとるかとあるりかりひとり

△くろ　畔をあり轉れをとるへし優名鈔に膝を訓せり新撰字鏡

り壠をもとみ塚也とんとり○ほとりに物と多く積累ねるとい

ふまぐろ藁ぐろ栗ぐろ稗ぐろ命ぐりあり説字れをとる色一緯勞

とて松ぐろとより

くろ　黑をとあり昏しとおもす○ぐろくろいぐろくろさら

黯字れをぐぐい媒れをやうすぐろくろを竊云とより

くろび　萬寶不求人に空漏日とあり田家宝に鍋釜沈ふ見あり

とんとりれと暦に黑圈とあり又暗といひ又まくろぶ日をい

面り受死日也とて○暦に十とあるも十死日也俱に大凶日也とて

くろかみ　詩經れ鬢髮也とより新撰字鏡に鬢をかみうるりとよ

光り○ほとりの髮いと上物也日葛ひに近し又海中に多り

くろとり　日本紀に黑鳥とあり優名鈔に鴉とあり百寶集に佐

日紀に黑毛の駒馬とあり説とあり兼れ平氏れ大和物語

乃相貴ゆ驚きて逃落ちうしなふ小兒をとらむ百絲とゝゆ小文ゆ鴨あつまりて動きゆ小雷ありと引池せり東鑑ゆ海黒色又海鴨とゝゆ黒色とゝ符堅ゆ敗もて淝ゆ聞風聲鶴唳皆以為普軍ゆ至とゝ李愬ゆ吳元濟と鏡淝ゆ鵝鴨池と擊て軍聲と紛とゝゆ同日此淝也又秧鷄此小形なりとゝ

○三十

ちうんが　麥奴とゝゆ黒穗のゆゑ也むぎかうじともゆ名臣言行錄此烏昧草也とゝゆ○貝ゆ讃列賀列ゆ烏投也とゝ

○蛮人ゆいかゝりゆ此産郎崑崙奴也朱或ゆ可談ゆ廣中富人多畜鬼奴云ゝ有一種近海者入水眼不眨謂之崑崙奴とゝ

又因引鹿野ゆ長七尺此男ゆ高麗陣此時因ゆて來ゆ崑崙ゆ此産色ゆて黒しとゝゆ又晉書ゆ李大后形長而色黒宮人皆謂之崑崙とも黒物糖ゆ崑崙蕨とも和蘭人ちうんがと呼ゆ今長崎ゆ通ゆ來ゆ水絲ゆ熟ゆ此人黒人なりとゝ元黒人とも呼て

ちうんがゆ唐扶南傳ゆ崑崙勃姓ゆとゝゆ又黒崑崙とも

○杜詩ゆ家々養烏鬼とゝゆ鸕鷀也とゝゆ崑崙奴とゝゆ

○明史ゆ据也ハ良ゆ然り一夕話ゆ載ゆ乃邏羅國此猶ゆ

因ゆ名とゝゆ　長崎ゆくろすとゝゆ

くろさけ　黒酒白酒とゝゆ酒此名ゆて大嘗會ゆ辭と

萬葉集天平勝寶四年新嘗會此奇ゆ康富記ゆ醴酒と白者自其色也黒者上聊振烏麻粉とゝゆ今ハ白者此清酒と用ゆ

ら御黒ハ眞祝儀ゆ燒灰とゝゆ延喜式ゆハ入文佐木灰三斛と

黒ゝゆて神ゆ黒胡麻ゆ黒し○酒弥豆男神ハ黒御酒造神也

酒弥豆女神ハ白御酒造神也とて酒殿神社とゝ

くろとみと　黒戸此御戸也黒戸ハ所薪ゆ黒ハ所ゆ清涼殿此小此御戸此なるゆ拾芥抄ゆ見とゝ○

樓裡女中須ゆ佛壇と所黒戸とゝ

くろざとゝ　黒木ゆ黒木とゝ

○卅一

う[illegible]ハ[illegible]ら[illegible]を[illegible]赤ハ[illegible]を割り[illegible]と[illegible]○延喜式た
[illegible]門府大舎人寮[illegible]の[illegible]杖[illegible]事[illegible]紀[illegible]寮子錦[illegible]又綾[illegible]本
△くわし　寮字を用ゐるは[illegible]紀[illegible]寮子錦[illegible]又綾[illegible]本
朝式に小寮錦一寮二寮五寮錦[illegible]韻府に古有逃死者寄魂於
蜂窠中鬼尋不見とかくに捉[illegible]又鳳乃すくなし或ハ木瓜を
載る象を写しくるるもとかく寮の紋寮に霰[illegible]○屯営
[illegible]中十人一房[illegible]て炊爨を共にするとそて十人を火[illegible]其頭領
を火長といふ火を夥と音を通し夥長とも[illegible]又海船[illegible]長を
夥長といふ又火伴といふも同し○[illegible]ハ靴とも

くつ　過所[illegible]音也[illegible]日本紀関市令[illegible]釈名に
過所至関津以示也或云傳過也移所在識以為信[illegible]今
[illegible]を過書[illegible]朝野群載に過所牒[illegible]○過
所舟[illegible]関市令に若船筏経関過者亦請過所[illegible]
小[illegible]を傳道といふ[illegible]ハ一也[illegible]○宋白曰古書之帛為繻刻木

為契二物通謂過所也○甚所を過るハ宮の處分なる故に過所とい
くるんらく　縉紳家にて病氣[illegible]事を歓樂といハ友語なるへし[illegible]
[illegible]拜賀元服婚姻等[illegible]祝儀[illegible]所勞[illegible]人[illegible]辞に歓樂[illegible]子
細いりて[illegible]儀式帳[illegible]病を[illegible]
同[illegible]なるへし

くくりしん　本ハ毗那夜伽[illegible]譯称障碍神[illegible]荒神鹿乱荒神念
怒荒神[illegible]身を三寶荒神[illegible]を[illegible]ハ[illegible]障礙経[illegible]
竈神を荒神を称し[illegible]佛法[illegible]又興津彦興津姫
乃二神を大土祖神を配し[illegible]三宝[illegible]
たゞ荒[illegible]を[illegible]又石凝姥天目一神金山彦命
を一体三面[illegible]魂を況し[illegible]附會[illegible]
寺[illegible]荒神和列笠[illegible]荒神[illegible]
中世[illegible]盲人琵琶を鼓し地神経を誦して[illegible]佛法地神
経一巻[illegible]卑俗[illegible]文字[illegible]藏書[illegible]目[illegible]紀[illegible]

837
34
48

窒衰記ニ荒神鎮て財寶を得といひ又陀天ハ法ともいひ即陀吉尾天
乃邪法ハ神或ハ貴狐天王とも称せり又知足院陀祇尾ハ法と行ふ狐
ハ尾を以て祭るより福天神と其祠ハ[illegible]著聞集ニ[illegible]
城州の西一条大路の南ニあり是なり

△くゐ　貴音を拗音ニいくゐとよみ来るより今ハ唐音ともさとあり

△くゑ　日本紀ニ蹶字を蹶字とよめりくゑ及ひ也○延喜式ニ久恵
膳ハ魚ハ名也

△くに

国立国会図書館　タイトル『和訓栞』　請求記号 837-48
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『和訓栞』 請求記号 837-48

ガラス使用